

令和3年3月

各位

## 野呂川・中畑川における今後の河川改修等に対するご意見について

令和2年11月14日に安浦まちづくりセンターにて、野呂川・中畑川における今後の河川改修に関する説明会を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、質疑時間を制限したことを踏まえ、意見シートへの記載をお願いしましたところ、皆様から多数のご意見をいただき、ありがとうございました。

つきましては、個人が識別される情報を除いた上で、ご意見に対する県の回答を付したものを作成いたしましたので（次ページ以降）、ご覧いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先

県西部建設事務所呉支所

野呂川ダム管理事務所（☎0823-84-3116）

## 今後の河川改修に関する説明会（令和2年11月14日開催）意見シートに対する回答一覧表

※ご意見(ご質問)の趣旨毎に分割いたしました意見シートもございます。

番号※	ご意見	回答
1回目-1	中畑川同様、川幅拡張が必要。 流木等、田畑に入り込み護岸が多く崩れて災害復旧が遅れていると思われます。	現在も、早急な復旧がなされるよう、取組を実施していますが、皆様にはご迷惑をおかけしております。 農地(境界)や里道に関するご要望は、関係機関と共有し、調整いたします。 引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
1回目-2	他家との境界が流失して境界がわからなくなり、農地を工事してもらえないか。高さ1m長さ30m位。 橋が流失して農地に渡れなくなったので、巾1.3m位の里道作って欲しいのですが。資料-2.2の13ページ。【説明図略】	現在も、早急な復旧がなされるよう、取組を実施していますが、皆様にはご迷惑をおかけしております。 農地(境界)や里道に関するご要望は、関係機関と共有し、調整いたします。 引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
1回目-3	中畑川の中を広げる計画は用地買収が全部済まないと一部だけ拡張してもあまり効果ないのではないかと思う。完全買収は不可能に思える。川岸を高くすることはできないのか？	ご意見を踏まえ、野呂川、中畑川の河川改修において、今後の詳細な調査、検討に活かして参ります。 川岸を高くする「築堤」という手法においても、用地買収が必要となりますので、よりよい整備方法を検討したいと考えています。 また、設計段階等において、地元説明会等を開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。
1回目-4	住居が安登なので、河川改修には殆ど関係ありませんが、同じ安浦町民として今回の説明会に参加させて頂きました。 先日、アンケート用紙にも記載致しましたが、どの河川も川底が比較的浅く、水量が少なく、川岸に溢れることが予想されます。川底を深くすれば水量が多くなり、当然溢れ出るのを予防できると考えますが、それにはかなりの予算が必要かと思えます。そこを何とか、財源を考慮し、被害の出そうな河川に優先順位を付けられて、順次整備して行く必要があるかと考えます。長期間になるとは思いますが、まずは一つの河川から始めて頂ければ幸いに思います。	河川改修においては、川底を掘り下げるなど河川断面を大きくし、H30.7豪雨相当の洪水に対して、堤防から越水することなく流すことができるようにします。 また、早期の治水安全度向上を目指すため、計画的に河川整備を進めて参りますので、引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
1回目-5	野呂川ダムのソフト対策について、配備人員の倍増2名→4名体制とする。 以上の説明がありました。平成30年の災害時の説明の際には緊急時には7名体制を取ると説明があったと思いますが変更はありませんか？	変更ございません。大雨に関する警報が発表になった場合、4名体制を取ります。また緊急放流(異常洪水時防災操作)が想定される場合には、7名体制を取ります。
1回目-6	野呂川水系光木川の護岸の修復工事を願う。	ご意見は、関係機関(当該復旧工事担当部署)と共有し、対応いたします。
1回目-7	資料3-1 今後の河川整備内容説明資料(素案) (7ページ) (問題) ①床堀0.4mは浅すぎる ②現在、共済橋の下流では石が根固ブロックの上に積石している (見直案) ①両端に根固ブロックを敷く ②河川の中央を2m以上床堀をする ③河川の中央部に水を常に流す事により、農業用水として年中利用できる 【説明図略】	ご意見を踏まえ、野呂川、中畑川の河川改修において、今後の詳細な調査、検討に活かして参ります。 河川整備計画での掘削深さは、平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水による家屋浸水被害を防止することを前提に、既設護岸への影響、河川環境への影響に配慮した計画としています。 また、設計段階等において、地元説明会等を開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。
1回目-7	「野呂川水系河川整備計画」においてのお願い事項 野呂川は自然豊かで、きれいな水が流れている河川です。川にはメダカやハヤ、カニ、また夏には鮎川も上がってきました。河原ではサギなどの鳥が水を求めていました。また6月から7月には、たくさんの蛍が飛んでいました。 野呂川ダムの下流では、60haあまりの耕地があり、稲作や野菜作りなどの農業用水として、利用していました。 しかし、平成30年7月の豪雨災害で河川の氾濫などにより、多くの被害が発生しました。このような野呂川を行政機関や地域と連携、協力して、今後、河川の整備を行い豪雨に強い河川整備計画をお願いいたします。	河川改修を行う際には、滞筋や瀬、淵の復元を図ります。また、動植物に関しては、その生息・生育・繁殖環境が保全されるよう、必要に応じ、専門家の指導・助言を得ながら、十分配慮します。 災害の発生防止又は軽減に関しては、平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水による家屋浸水被害が生じないよう、野呂川ダムの有効活用や河川改修を行います。
1回目-7	野呂川の河川内を定期的な整備を行政機関関係や地域(河川の美化活動など)が協力して行うことができるよう河川敷にして欲しい。水量が少ない時には河川敷で散歩やジョギング、魚釣り、夏には水遊びができる。そのため、河川敷に入れるよう、スロープや階段の設定をお願いします。	河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水との調和を図りながら、地元住民が河川に親しみを感じ、河川空間の利用が図られるように、親水性に配慮した河川環境の整備に努めます。
1回目-7	野呂川河川の水は、蛇行して流れている所が多いので河川の護岸の保護を行い、すべて根固めブロック敷きとして、3ブロック以上の設置をお願いします。 野呂川河川は、数年間整備しなかったことや、石や砂利が一部に堆積したことで、河川の水が上手く流れなかったこと、また野呂川の河川全域が浅くなっていたような気がします。そのため、河川の整備を定期的に行ってください。同時に河川の川底を今より主に中央部を2mから3m深くし、水が通常は中央のみ流れるようにしてください。【説明図略】	ご意見を踏まえ、今後の詳細な調査、検討に活かして参ります。 河川巡視や出水期前・出水後など適切な時期に点検を実施し、状況把握を行い、その点検結果を蓄積するとともに、必要な対策を実施することで、「河川管理施設」の機能の維持に努めます。 なお、設計段階等において、地元説明会等を開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。
1回目-7	野呂川ダムは水害の防除と農業用水の利用を目的として建設されたと聞いています。野呂川に農業用水のせきや頭首工が、共済橋から上流に5～6箇所ありましたが、平成30年7月の災害で流されたり決壊した箇所があるので農業用水が利用できないところがあります。そのため河川内に水を引くためのせきや頭首工の設置や改修工事と同時に、せきや頭首工の整備点検のために河川内に入れるようスロープ(コンクリート構造)や階段の設置をお願いします。	ご意見は、関係機関(農林部局等)と共有し、調整いたします。
2回目-1	放流は潮の満潮をみて行ってください。H30の時は満潮時に放流した為、災害が大きくなった。	平成30年7月豪雨における野呂川の氾濫要因等については、「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」において整理しており、ご指摘の潮位の影響はないことを確認しています。 以下の広島県HPより資料をご確認頂きたいと思えます。 ■ <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/arikatakento.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/arikatakento.html</a> (『平成30年7月豪雨 あり方検討会』で検索願います)
2回目-2	河川整備のスケジュール(案) 今後のスケジュールについて 中畑川の改修はR8年になっています。社会はコロナ禍でも、地球温暖化も進み、その間に再び災害は起きるかもしれません。今年生まれた赤ちゃんは一年生になります。災害復興だけが過去の修繕に、いつまでも時間をかけている。コロナで人が不足している事も聞きましたが、もっとスピードを上げて貰いたいです。高齢者の命も限られています。	早期の治水安全度向上を目指し、河川整備を進めて参りますので、引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 今後の河川改修に関する説明会（令和2年11月14日開催）意見シートに対する回答一覧表

※ご意見(ご質問)の趣旨毎に分割いたしました意見シートもございます。

番号※	ご意見	回答
後日提出-1	1.野呂川に関しては工事の内容と今後の計画について良く分かった。今現在の工事されている所は頑丈にされている姿が見える。川底から4m位なっていて良いと思った。しかし、その他も同じように川底2m位の箇所も川底を掘ってゆくとので見落としがないようにお願いします。	野呂川、中畑川の河川改修において、お示した改修内容で、平成30年7月豪雨が発生しても、家屋浸水被害がないことを確認しています。 ただし、河川改修後の維持管理は重要不可欠であるため、堆積した土砂等が、治水上支障となる場合は、環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を講じ、維持管理を徹底して参ります。
後日提出-1	2.豪雨が起きた時に雨量が(100mm/1時間・100mm/2時間)降った時。河に流れる水量がどうなるのか説明してほしい。30年の豪雨災害が発生した時の基準で水量を計算して、今の川ではこうなるが対策をしたらこのような状況になるから河からのオーバーフローは起きないと説明が欲しい。だから、護岸工事はこのような考えから実施されている説明して欲しい。3.3つの川が重なったところの護岸は大丈夫か。又、大潮と豪雨が起きた時、河が重なった箇所で海からの侵入はないか。色々な方向から周囲を見つめてこれからのあるべき姿を説明してほしい。	ご説明させていただいた河川改修の内容でご心配されている点は、解消されます。 河川改修で川の断面を広げることなどにより、平成30年7月豪雨において、家屋浸水被害は防止可能です。本資料の末尾に本事業による水位低減に関する資料をつけましたので、ご参考ください。また大潮と豪雨が起きた時、川が重なった箇所海からの侵入がないことも確認しています。 ただし、河川改修後の維持管理は重要不可欠であるため、護岸の状況等も含め、維持管理を徹底して参ります。
後日提出-1	4.中畑川の河川で(JRの線路下から国道橋)の間が決壊して駅前が浸水しひどい目に合った。その為の復旧箇所の説明を県がされていたが良く判らなかつた。近くに住んでいる人が質問されていたが内容に厳しいことが沢山ありました。素人から考えると川からのオーバーフローを止める事が大事なのにオーバーしてもいいような言い方を県がされていた。なぜ道路の嵩上げを1m至急できないのか疑問に感じた。出来ない問題はどこにあるのか。災害を100%完全に防ぐことはできないが、やらなければ解決できない。	説明不足で申し訳ありません。中畑川の河川改修を行えば、平成30年7月豪雨において、家屋浸水被害は防止可能です。誤解のないよう、お願いいたします。 説明会では、中畑川の整備には時間を要しますので、早期に被害軽減がなされるよう、流木対策などを講じる旨、説明させていただきました。その整備の途中段階で、「これだけ被害が軽減されます」と説明させていただいたため、「家屋浸水が残る」という誤解が生じたと考えております。
後日提出-1	私が一番判らない中畑川の護岸対策 野呂川の下流は1m嵩上げされ30年の豪雨災害で壊滅した箇所が一つもありません。もし嵩上げが無かったら河川からの水害で周囲の家はほとんど流されていたと思う。 今の自分が生きているのも昔の人が嵩上げをして下さったおかげです。嵩上げは、絶対に必要で有るとわたしは確信した。 なぜ県の人はやらないのか不思議でならない。住民のほとんどが疑問に思っている。川底から2mぐらいの河川は安芸津町・安浦町・すべての河川が氾濫して町全体が大きな災害に見舞われている。なぜやらない…？嵩上げによって良い結果が出ているにも関わらず工事のやり方が変わらない。2度と同じ過ちを繰り返して欲しくない…… 中畑川に関して、皆でこうやれば良いと思う方法を住民と県で話し合っって良い方法で早く進めて解決して欲しいと思った。	ご意見を踏まえ、野呂川、中畑川の河川改修において、今後の調査、検討に活かして参ります。 川の断面を広げる方法としてご意見でいただいているような①堤防のかさ上げの他、②引堤(川幅を広げる)③川底掘削等が考えられますが、今回の計画では総合的に判断して、②引堤③川底掘削を計画しております。 また、設計段階等において、地元説明会等を開催する予定ですので、よろしくごお願いいたします。
後日提出-2	1. 目標について 改修の目標を平成30年7月豪雨の規模とされているようですが、地球温暖化が進み災害の規模が毎年大きくなっているときです。1.2倍とか1.5倍に設定して改修目標を考えてみる必要がないでしょうか。	災害の発生の防止又は軽減に関しては、過去最大規模となった平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水による家屋浸水被害が生じないよう、野呂川ダムの有効活用や河川改修を行います。 今後、ご指摘の通り、更なる治水安全度向上に向けた整備が必要と考えますが、第一に再度災害防止の観点から、対応したいと考えています。
後日提出-2	2. 野呂川(川手神社～下流域)の定期的な改修工事の実施 昨年、野呂川の川底を掘削していただきました。それでも60年前に川を拡幅工事したときに比べると1メートル近く浅くなっています。 野呂川は毎年大水があると大きな石が流されてきて川底が浅くなります。定期的な川底の掘削をお願いします。5年に1度とか、10年に1度とか定期的に考えて頂きたいです。 また、昨年の掘削工事の際、土手の強度が不足しているとのこと掘削していない場所があります。土手の補強も検討をお願いします。 災害があると大騒ぎをして対策を考える。災害が起こる前に危険を予知する手段はないのでしょうか。ここまで水位が来たので4、5年うちには危ないといったような危険に対する感度が必要だと思います。	河川巡視や出水期前・出水後など適切な時期に点検を実施し、状況把握を行い、その点検結果を蓄積するとともに、必要な対策を実施することで、「河川管理施設」の機能の維持に努めます。 また、河川改修後においても、堆積した土砂等が、治水上支障となる場合は、環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を講じ、維持管理を徹底して参ります。
後日提出-3	中畑川について、上流より下流にむかって左側のみ説明されましたが、右側の方はどうなるのか。安浦小の右は左と比べ低い。よって中畑川増水すれば体育館のフロア一水びたしです。右岸から中畑川に向かって水路あり、その水路が中畑川の増水にて水路の流れが止まり道路、住宅へと浸水しています。	ご指摘の通り、右岸側からの水路が最も早く浸水することを確認しています。 呉市等の関係機関で連携し、必要に応じて総合的な治水対策を実施し、内水被害や外水被害の軽減を図ります。
後日提出-3	JR呉線 流踏切があります。地名のいわれ、よく川岸がこの付近で決壊するからと聞いています。現在コスモスがある付近、町の水源地がありいい水がでていました。地形、土地の歴史等全体をよく調査し整備計画をたてて下さい。	ご意見を踏まえ、野呂川、中畑川の河川改修において、今後の調査、検討に活かして参ります。 また、設計段階等において、地元説明会等を開催する予定ですので、よろしくごお願いいたします。
後日提出-3	人が作ったものは常に整備していかないと壊れてしまう。作ったからもう終了とせず、その後のこともよく考えてください。ダムを作ったから治水はもういいだろう。自然の猛威にはかえりません。よく考え自然と共存することが大切です。	河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、洪水による被害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全がなされるよう総合的にまいります。

## 今後の河川改修に関する説明会（令和2年11月14日開催）意見シートに対する回答一覧表

※ご意見(ご質問)の趣旨毎に分割いたしました意見シートもございます。

番号※	ご意見	回答
後日提出-4	<p>私は、今年になってから野呂川流域の住民の方々から野呂川災害復旧及び嵩上げ工事の要望のお願いに広島県西部建設事務所呉支所を訪ねました。その時の呉支所の職員の説明内容は、「護岸の復旧は必ずします。護岸の嵩上げ等の工事は、野呂川水系河川整備計画に整備内容や事業を盛り込む為、県がアンケートや説明会を実施し、住民の皆様のを必ず整備計画に反映します。」と約束してくれました。この要望は、私が支持する県会議員の方にも同様な要望をし、県の方より県会議員に返答があり、同じお答えを頂きました。私は安心しました。</p> <p>しかし、説明会の内容を聞き、災害時の事実、県職員がしてくれた約束とは違うと思いました。それは、説明資料-3.1 11P 野呂川水位縦断面図の整備前の水位は、中畑川水位縦断面図と同様に災害時には濁流が護岸を越えていました。私自身、越流している状況を実際に見ましたし、流域の住民の方々からも越流していたとの実態をお聞きしました。シミュレーションから事業内容を策定するのではなく、事実をもとに策定すべきです。入力する数値を実際とは小さい数字で設定しているのではないかと疑義が生じます。掘削の深さも違ってくると、掘削だけでなく嵩上げしなくてはならない箇所もあると思います。この計画は、住民の要望や意見を活用し、反映しない計画であると思いました。安心して過ごせないと思いました。</p> <p>説明会では、野呂川の一部分を嵩上げたとの説明がありましたが、他の箇所もあると思います。是非とも、事実をもとに整備計画、整備内容や事業計画を再検討して頂くことを要望します。</p>	<p>説明会における資料(3.1 P11)に関しては、野呂川ダムの操作ルールを変更した場合にダム下流に流れる量を基に、河川整備(改修)による水位低減効果を示したものです。ご指摘の通り、平成30年7月豪雨時の野呂川において、一定区間から越水したことを県としても把握しており、その区間においては護岸の高さより高い水位にあったと認識しております。資料でお示している縦断面図・断面図が誤解を生じる資料となり、申し訳ありません。今回、説明会資料に追記したものを本資料の末尾に提示させていただきます。</p> <p>平成30年7月豪雨における野呂川の氾濫要因等については、「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」において、整理していますので、以下の広島県HPより資料をご確認頂きたいと思っております。</p> <p>■<a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/arikatakento.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/arikatakento.html</a> (『平成30年7月豪雨 あり方検討会』で検索願います)</p> <p>また、事業計画等に関するご意見につきましては、今後の詳細な調査、検討に活かして参ります。</p>
後日提出-5	<p>今回は、2年間の流れとこれからの予定みたいな説明会と解釈しています。ダムを作らなければいけなかった過去は、関係者一同、理解されてると思います。繰り返しは、いけません。元に戻すことではなく、これからの災害に耐えられる河川整備を強く願っておられると住民はいます。</p> <p>安浦は特に平野が少ない地域。私の場所は、安浦大橋の土手です。中畑、中切、野呂が一気にきますと、人と家もどこかに行ってしまうところです。</p>	<p>災害の発生の防止又は軽減に関しては、原形復旧ではなく、過去最大規模となった平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水による家屋浸水被害が生じないように、野呂川ダムの有効活用や河川改修を行います。</p>
後日提出-5	<p>資料を見て感じたことは、目立つ箇所は工事が早く、人の目にふれない陰は「未」だから、おじさんが声を大にしてお願いをされたのですね。命です。目にふれない場所こそ、早目にしてあげてください。それこそ安心一番の生活を。スケジュール(案)気が遠くなりそうです。これも先に天応、小屋浦地区を先にしたから遅くなったのでしょね。他にも、水尻、日の浦、三津口、女子畑の奥などの事も知らせるべきだと思います。</p>	<p>現在も、早急な復旧がなされるよう、取組を実施していますが、皆様にはご迷惑をおかけしております。ご意見は、関係機関と共有して参ります。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p>
後日提出-5	<p>次回の説明会の案内もお願いします。(私、アナログ生活、ネット、スマホなしですから)</p>	<p>ご意見を踏まえ、今後の説明会等においても、周知方法を検討いたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
後日提出-6	<p>今回の説明会では中畑川の上流の中畑地区の中畑川の話はされませんでした。中畑地区の川の護岸工事は何年度になりますか？</p> <p>川沿いの田んぼの護岸が多数壊れたままになっていて、工事がこのまま何年も先になると田んぼがさらにえぐられていきます。</p> <p>黒い大型土のうを置いた田んぼとそうでない田んぼがありますが、この差は何でしょうか？中畑地区の工事が何年後になるなら、せめて黒い大型土のうを置いて応急処置はできませんか？</p>	<p>現在も、早急な復旧がなされるよう、取組を実施していますが、皆様にはご迷惑をおかけしております。ご意見は、関係機関(当該復旧工事担当部署)と調整いたします。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p>
後日提出-7	<p>野呂川ダムの水位について普段から水位を下げる運用に変更されているとのことでしたが、平成30年8月以前の水位はダムがつくられた最初から変わっていなかったと伺いました。もし「以前から決まっていたから」という理由だけで約40年という歳月で変化してきた気象状況などを考慮していなかったということであれば、非常に残念です。</p> <p>そこで、ある頻度で気象情報などを参考にシミュレーションをし、普段のダムの水位決める運用を期待いたします。防げたか防げなかったかは誰にも分かりませんが、それを実施していれば、平成30年7月の規定違反の大量放流をしなくても良かった可能性があったと思います。これは、今年の7月の豪雨のときは平成30年8月以前の水位で特に問題はなかったと伺いましたので、それと比較しての意見です。過去は変えられないので、災害が起きてからルールを変えるといったことにはないよう、柔軟な対応で「災害を予防する」ことに注力していただきたいです。</p>	<p>野呂川ダムによる洪水調節機能強化の取組について、その機能を最大限活用することができるよう、ダム下流(野呂川)の水を流す能力の向上のための河川改修を実施した後、ダムのゲート開度を見直し、事前放流の実施など、ダムの有効活用を図って参ります。</p>
後日提出-7	<p>監視カメラの設置についてですが、もっと増やした方が良いと思います。特に過去に氾濫した箇所には可能な限り設置していただきたいです。</p> <p>ダムに関わる方の情報共有について伺いましたが、判断する本庁の方々メインで行っている印象を受けました。結局作業するのは現場の運用者の方々だと思いますので、その方々がうまくできたオペレーションや失敗してしまったオペレーションを共有された方が良いと思います。</p>	<p>監視カメラの更なる設置につきましては、ご要望として受けたまわりました。</p> <p>また、ダムの運用につきましても、現場事務所職員の更なる運用能力向上に努めて参ります。</p>

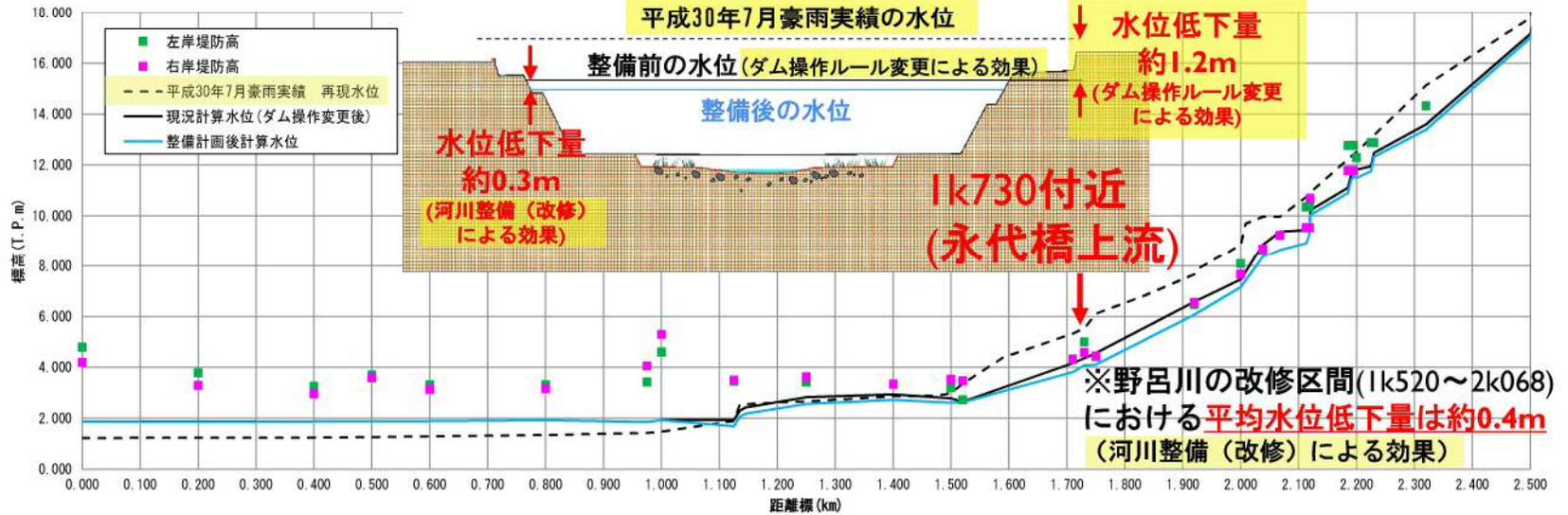
# 3

## 河川整備の効果について

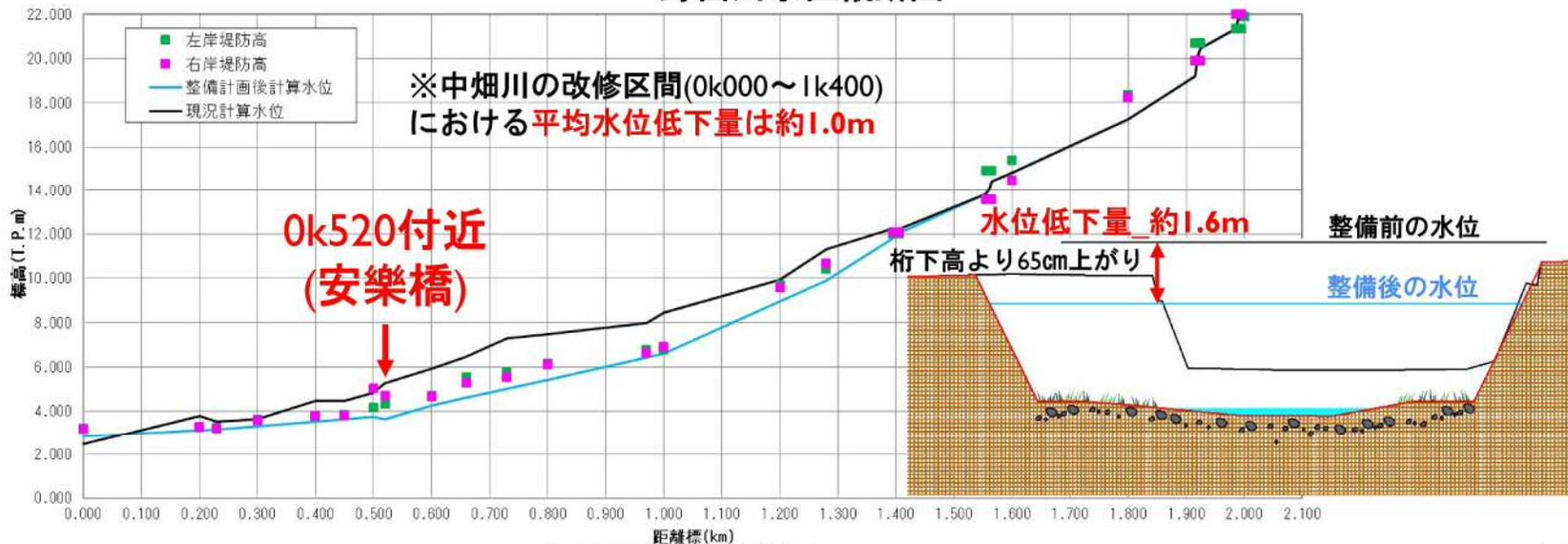
### ■ 水位低減効果

※背景黄色箇所が今回追記

- 整備対象流量（ダム操作ルールを変更した場合の流量）が河川内で流下した場合の水位低減効果を算定
- 整備区間内の平均水位低下量は、**野呂川で約0.4m**，**中畑川で約1.0m**



野呂川水位縦断面図



中畑川水位縦断面図